

6番目のしるし：生まれつきの盲人のいやし

ヨハネ福音書9:1-12

【新改訳 2017】

- 9:1 さて、イエスは通りすがりに、生まれたときから目の見えない人をご覧になった。
- 9:2 弟子たちはイエスに尋ねた。「先生。この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか。」
- 9:3 イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れるためです。」
- 9:4 わたしたちは、わたしを遣わされた方のわざを、昼のうちに行わなければなりません。だれも働くことができない夜が来ます。
- 9:5 わたしが世にいる間は、わたしが世の光です。」
- 9:6 イエスはこう言ってから、地面に唾をして、その唾で泥を作られた。そして、その泥を彼の目に塗って、
- 9:7 「行って、シロアム（訳すと、遣わされた者）の池で洗いなさい」と言われた。そこで、彼は行って洗った。すると、見えるようになり、帰って行った。
- 9:8 近所の人たちや、彼が物乞いであったのを前に見ていた人たちが言った。「これは座って物乞いをしていない人ではないか。」
- 9:9 ある者たちは、「そうだ」と言い、ほかの者たちは「違う。似ているだけだ」と言った。当人は、「私がその人です」と言った。
- 9:10 そこで、彼らは言った。「では、おまえの目はどのようにして開いたのか。」
- 9:11 彼は答えた。「イエスという方が泥を作って、私の目に塗り、『シロアムの池に行って洗いなさい』と言われました。それで、行って洗うと、見えるようになりました。」
- 9:12 彼らが「その人はどこにいるのか」と言うと、彼は「知りません」と答えた。

【祈りながら考えよう】

- (1) 「生まれつきの盲人」を見た時、この人に対する弟子たちの考えはどんなでしたか。
- (2) 弟子たちの考えに対して、主は何と語られましたか。
- (3) この盲人は主イエスの奇跡的わざにあずかるのに何が必要でしたか。

【解 説】

(1) ヨハネ福音書の特徴

ヨハネ福音書は7つのしるし（奇蹟）を中心に構成している。それぞれの奇蹟には、イエスが神であることを示す、というねらいがある(20:30-31)。

①ガリラヤのカナの婚礼で水をぶどう酒に変える(2:9)。②王室の役人の息子をいやす(4:46-54)。③ベテスダの池のほとりで足の不自由な男をいやす(5:2-9)。④5千人に食事を与える(6:1-14)。⑤ガリラヤ湖の水の上を歩いて、弟子たちを嵐から救出する(6:16-21)。⑥生まれつきの盲人をいやす(9:1-7)。⑦ラザロを死からよみがえらせる(11:1-44)。人々の前で公に行われた上記の7つのほかに、復活後、弟子たちのためだけにされた8番目のしるし(大漁の奇蹟)がある(21:1-14)。

(2) 盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか

主イエスがエルサレムのある道を歩いておられると、そこに生まれながら盲目であった人が物乞いをしていました。その盲人を見ると、主の弟子たちは、主にこう質問した。

「先生。この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか」(2節)

人はよくこのような考え方をします。このような考え方は、今人が負っている苦しみ、悩みには、必ずその原因となる罪があるのだから、そのバチが当たっているのだという考え方である。

盲目というこの状態が、この家族の罪と関係がある、と弟子たちが思っていた。しかし、必ずしもそうであるとは限らない。病気や苦しみや死のすべては、究極的には罪の結果としてこの世に来たことは確かであるが、どのような場合でも、自分が犯した罪のために人は苦しむ、というのは当たっていない。

(3) この人に神のわざが現れるため

それに対する主のお答えは違っていた。

「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れるためです。」(3節)

神があえて、盲目で生まれるのを許されたのは、この男が神の素晴らしい「わざ」を示す手段となるためであった。この男が生まれる前に、主イエスはやがてこの見えない両眼に視力を与えることになる、とわかっておられた。

今の私たちから見れば、不幸や悲惨なことはマイナスにしか見えないが、神はそれをプラスに変えてくださる。だから、どんなに大きな苦しみ、悩みの中にあっても、神がそれを通して驚くべきことをして下さることが分かれば、私たちはもはや苦しみや悩みの中に放り込まれっぱなしではなく、やがてそれを益に変えてくださる神に対する大きな期待と信頼を持つことができる。ここに、他の宗教とキリスト教の大きな違いがある。

このような時、私たちは神の約束の御言葉を心に銘記することは、大きな励ましになる。

「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」(ロマ8:28)

この「すべてのこと」の中には、私たちにとってマイナスと思われることも含まれているから、この御言葉は非常に力強い励ましを与えてくれるものである。

(4) わたしを遣わされた方のわざを、昼のうちに行わなければなりません

主は、彼の上に神のわざが現れると言われたのに続いてこう言われた。

「わたしたちは、わたしを遣わされた方のわざを、昼のうちに行わなければなりません。だれも働くことができない夜が来ます。わたしが世にいる間は、わたしが世の光です。」(4節)

主がこの地上におられる間、主は父なる神のみわざをなされ、世の光としての役割を果たすということである。

しかし、主はやがてその生涯の終わりに十字架につけられて死なれる。その時は「夜」なのである。それでは、主が十字架につけられて死なれると、もう真っ暗闇の夜になってしまって、光はないのかと言うと、そうではない。

主は、山上の説教で、「あなたがたは世の光です」と言われたように、私たち主の弟子たちが主からの光を反映させながら、世の光としての役割を果たすべき任務がある。

(5) 行って、シロアムの池で洗いなさい

こう言われてから、主は地面につばきをし、そのつばきで泥を作られ、その泥を盲人の目に塗って、こう言われた。

「行って、シロアムの池で洗いなさい」(7節)

ここで、この盲人に与えられた指示は、敬虔なユダヤ人たちに、エリシャがシリアの將軍ナアマンに与えた「ヨルダン川に行って…洗いなさい」(Ⅱ列王記5:10)という指示を思い起こせに違いない。

この池の水は他の水と同様、本来なんのいよしの効能も持っていなかった。しかし、この命令は信仰を試すものであり、従うことによって、この盲人は自分が望んでいたものを見出した。これは聖書全体を流れる偉大な原則である。

「信じて従いなさい。そうすればすべてそのとおりになります。」

その御言葉に従い、シロアムの池に行って洗うと、その人は見えるようになった。ここで大切なことは、たとい私たちの常識や理解を越えていることであっても、主がそれをせよと仰せられるところに従うところに、主のいよしがあつたことを知るべきである。

(6) 將軍ナアマンの実例

昔アラムの王の軍の長ナアマンがツァラアトに冒されており、その家にいたイスラエル人の小間使いの女の子の話を聞き、預言者エリシャの所に行くのであるが(Ⅱ列王記5章)、その時、預言者エリシャはアラムの王の軍の長、しかもその国王からイスラエルの王宛ての親書を持って来ているほどの將軍が自分を訪ねて来たというのに、出て来ようともせず、召使を送って、「ヨルダン川へ行って七回あなたの身を洗いなさい。そうすれば、あなたのからだは元どおりになって、きよくなります。」と言って寄こした。

ナアマンは激怒して去り、そして言った。

「何ということだ。私は、彼がきつと出て来て立ち、彼の神、主の名を呼んで、この患部の上で手を動かし、ツァラアトに冒されたこの者を治してくれると思っていた。ダマスコの川、アマナヤパルパルは、イスラエルのすべての川にまさっているではないか。これらの川で身を洗って、私がきよくなれないというのか。」

こうして、彼は帰りかけるのであるが、部下の者たちが来て、將軍をいさめ、「閣下はどうしてそんなにお怒りになるのですか」「…難しいことを、あの預言者があなたに命じたのでしたら、あなたはきつとそれをなされたではありませんか。あの人は『身を洗ってきよくなりなさい』と言っただけではありませんか。」

ナアマン將軍は思い直して、ヨルダン川に七回体を浸す。すると、彼の体は元どおりになって、幼子の体のようなつたというのである。

これと同じである。つばきで泥を作り、それを目に塗った後、シロアムの池に行って洗うということは、常識では理解できないことである。しかし、それに従った時、目は見えるようになった。

霊の目が見えない人の場合も同じである。常識や理性で理解できないことは絶対に信じないと思っている人は、決して霊的開眼をすることはしない。主がせよと仰せられるのに従う人だけが霊的開眼を経験出来るのである。

(7) 自分の経験を証しする

この見えるようになった人に対して、近所の人たちや彼のことを知っていた人たちが、「おまえの目はどのようにして開いたのか。」と質問した時、彼は自分が経験したことを、ありのままに語った。

しかもその時、彼は自分の体験をただ語ったのではなく、主が自分に対してどのようにして下さったのかということ語っている。これが証しである。私たちが主が私たちの心の目を開いて下さったこと、主がなして下さったみわざを、人々に語りたと思う。それが証しにほかならない。

彼の証しは単純ではあつたが、説得力があつた。彼は自分がいやされた経緯を順に述べ、それは奇跡を行ってくれた人のおかげである、と言つたのである。

